

私たちは「機械系ものづくり女子」(後編)

前回に引き続き、秋田職業能力開発短期大学校生産技術科1年生「ものづくり女子」の長井鈴世さん、白根七海さん、小椋由稀さんの3人をご紹介いたします。

彼女たちは今「ものづくり」を学び、どんなことを感じているのか聞いてみました。

—秋田職業能力開発短期大

学校に入校を決めた理由。



長井さん(旋盤作業中)

秋田職能短大 生産技術科

長井 鈴世さん
白根 七海さん
小椋 由稀さん

長井 「高校卒業後は県外での就職を目指していました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で状況が変わり進路に迷っていた時に、秋田職業能力開発短期大学校(以下、職能短大)を知りました。機械系技術のさらなるスキルアップのため、そして2級機械加工技能士(普通旋盤作業)取得に向けて挑戦したいと考えるようになり、職能短大への入校を決めました」

白根 「私も長井さんと同じ



白根さん(旋盤作業中)

く、新型コロナウイルス感染症の影響により、県外就職希望から進路変更して職能短大に入校を決めました。進学先を選ぶにあたり決め手となったのは、資格取得に向けて挑戦しやすい環境が整っていることや、他の学校に比べて学費が安価だったことです」

小椋 「私はもともとものづくりが好きだったことから、職能短大に通学している友人の勧めで興味をもち入校を決めました。家族から資格取得を勧められていたことや、地元であり学費が安価で、就職に強いことが入校の決め手となりました」

「機械系ものづくり女子」として感じていること。

長井 「工業系は特に昭和の雰囲気が出ていないように感じています。『所詮、女子にはできないだろう』とか、『女子は弱い』というイメージをもっている人が多いと思います。私は『女子でもものづくりができるんだよ。女子でも活躍できるんだよ!』と言いたいです。男だから女だからではなく、一人の人間として性別の区別なく平等に扱って欲しいと思っています」

白根 「普段の生活の中で女子だからという思い込みでやらせてもらえない時に、『なんで? やれるけどやらせてくれないの?』と違和感を持つことがあります。たしかに男子に比べて力が足りなくて、作業などで苦労することはあるけれどそこは気合で乗り切っているし、重い物を持つ時も、実は案外力はあるので大丈夫です。ものづくりの世界で男子とか女子というのではなく、私はたまたま好きなことがものづくりだっただけのことです」

小椋 「職能短大に入校する前に、女子が私一人だったら自分以外は男子という世界を想像した時に不安はありましたが、入校することを自分で決めたので前向きに捉えることができました。今感じていることは、どこであろうとほとんどの仕事に男性はいて、事務職であっても女性が一人だけの職場はあると思います。どんなことでも自分で興味があるなら、やった方がいいと思います」

—未来の「ものづくり女子」へのメッセージ。

長井 「私は職能短大で2級機械加工技能士(普通旋盤作業)に合格しました。2級は難しく合格までの練習はとても大変だったけれど、女子でも挑戦すればできるのです。むしろ女子だからこそ丁寧な加工ができるのかもしれない。女子でもものづくりで活躍できますよ」

小椋さん(フライス盤作業中)



小椋 「私はものづくりの道を興味で選びました。未知の分野だからこそ見るものすべてが新鮮で、難関試験へ挑戦するなどやりがいもあります。ものづくりの技術を学び、自分の将来に生かしたいと思っています。興味があるならやった方がいいですよ」

以上、2回にわたり「機械系ものづくり女子」についてご紹介しました。性別に関係なく自分の好きなことや興味を知り、自分らしさを大切にしている彼女たちのように、「ものづくり女子」たちが輝き活躍できる、多様性を尊重した社会の実現を願ってやみません。

秋田職業能力開発短期大学校 生産技術科 講師 村上 佑太
就職支援アドバイザー 伊藤 孝子